



小久保 照枝 議員 公明党

問 人と動物との共生社会の実現を

答 行政も引き続き普及啓発する

○飼い主のいない猫を適切に管理する「さくらねこ無料不妊手術事業」について以下を問う。

問 趣旨と内容は。

答 (環境課長) 行政・獣医師・ボランティア団体の連携によるTNR活動の支援により猫の繁殖を抑制し、適切に管理する活動で、殺処分ゼロを実現する有効な事業。

問 団体登録数と、連携方法は。

答 2団体。飼い主のいない猫を保護したい、TNR活動をしたいなどの相談がある際に、市と登録団体が連携して適切な管理を行う。

問 区長会などで周知、対応が出来ないか。

答 毎年4月の区長会で、周知していく。

問 無料不妊手術チケットの申請手続きは。

答 利用希望月の前月の1日までに環境課に申請を。

問 協力病院の現状は。

答 令和6年5月現在、全国で198院、愛知県で10院の動物病院が登録。

問 協力病院以外で避妊・去勢手術をする場合はどうなるか。

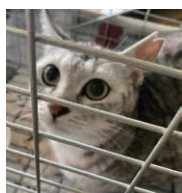
答 無料にならない。

問 市長総括を。

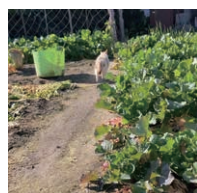
答 (市長) 飼い主がルールを守って適切に飼養することが重要。行政も引き続き普及啓発する。



T (捕獲)



N (避妊・去勢)



R (元の場所に戻す)

TNR活動

問 発達性読み書き障がいの理解を

答 相談体制を充実させる

問 小中学校において発達性読み書き障がい(ディスレクシア)の認識と把握は。

答 (教育部長) 文字の読み書きに関する学習障害で、医師の判断が出ている生徒が2名。

問 現在の学校現場での取組は。

答 板書のコピーを渡す、指でなぞって一緒に読む、個別に声掛けをする、保護者との面接を行うなど、児童生徒に寄り添った指導を行っている。



問 適切な支援体制が必要だと思いが見解は。

答 特別支援教育指導員や特別支援教育コーディネーターが、教職員に助言や指導を行い、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援を行う。

問 理解を広げるべきでは。

答 児童生徒には、インクルーシブ教育の大切さを指導、保護者には、冊子などを活用して理解促進、教職員へは、特別支援教育連絡会などで情報共有を図る。

問 教育長の見解は。

答 (教育部長) 体制を充実させ、一人ひとりに寄り添える体制を整える。

※インクルーシブ教育障がいがある子もいない子も等しく学習を行える環境を整える。

【その他の質問】「軟骨伝導イヤホンの導入について」